

第4次小金井市食育推進計画（案）の意見及び検討結果について

意見募集期間：令和3年11月8日（月）から同年12月8日（水）まで

意見提出数：1人・9件

番号	項目	寄せられた意見	意見に対する検討結果
1	食育市民アンケートの結果の示し方等について	<p>・複数回答可の質問は、選択肢の選択数の上限が無いのか、選択するのは「上位いくつまで」なのかで、結果の見方が変わってくるように思います。質問紙の通り、明記した方がよいように思います。</p>	<p>ご指摘いただきました内容を踏まえ、「2 小金井市の食をめぐる現状と課題」におけるアンケート調査結果において、複数回答可の設問に「〇はいくつでも」、「〇は3つまで」と追加し修正します。</p>
		<p>・8ページの「②朝食を食べているかについて」ですが、自身や家族が朝食を食べているか？の質問は、なぜ、「自身が朝食を食べているか」と「家族が朝食を食べているか」に分かれていないのでしょうか。 「あなたやあなたの家族は朝食を食べていますか×あなたは主菜を食べる時、一緒に野菜をどのくらい食べていますか」のクロス集計も、主語が違って、かつ「食べる人もいれば食べない人もいる」という曖昧な選択肢が入っているアンケート結果をクロスする意義が、どの程度あるのか疑問です。</p>	<p>アンケート調査を行うにあたり、より多くの方に回答をいただき、様々なご意見を反映させたいと考え、今回のアンケート調査の一部の設問については、回答者本人だけではなく、ご家族の状況も含め回答をいただいております。ご指摘いただきました内容を踏まえ、計画内のクロス集計表については削除します。</p>
		<p>・また、単位は%なら%と示して下さい。「N=」のセルも、合計人数ということなら、そのことがはっきりとはわかりません。一般市民が見るものですから、単位の明記をお願いします。</p>	<p>単位につきましては、明記させていただきます。</p>
		<p>・本文の「野菜を小鉢2皿程度食べると回答した人は、朝食の摂取率も46.8%と多くなっています」も、「自身や家族が朝食を食べている人のうち、野菜を小鉢2皿程度食べている人が46.8%」の誤りだと思います。もし「野菜を多く食べている人は、朝食をちゃんと食べている」の仮説</p>	<p>ご指摘いただきました内容を踏まえ、計画内のクロス集計表については削除します。</p>

		<p>があり、それを証明したいのであれば、分母と分子が逆だと思っのですが。また、「多い」と言い切るのであれば、何と比べて何がが多いのか、統計的に検定して示した方が、科学的だと思います。</p> <p>(このことが、食育の何の役に立つのかは、わかりませんが……野菜を食べない人に、野菜を食べましょうと言って、食べる野菜の量が増えたら、朝食も食べる頻度が上がるのですか？健康意識が上がって、結果的に朝食を食べる人が増えるというエビデンスはありますか？参考文献があれば、食育推進計画に、別添の資料などで、参考文献リストをつけても良いくらいだと思います。)</p>	
		<p>・8ページの「保護者調査でもおおむね同様の傾向にあり」とは、「食べない人」以外の割合をみているのかもしれませんが、グラフからは、「同様の傾向」があるのかどうか、ぱっと見ただけではわかりません。論理の飛躍を感じます。</p>	<p>本計画ではアンケート調査結果を抜粋し掲載しております。また、アンケート調査結果については、後日ホームページにて公開を予定しております。</p>
		<p>・24ページの図11-6のクロス集計表について、「ふだん、朝ごはんを食べない人は『授業に集中できない』『疲れやすい』の割合が多くなっている」とありますが、疲れやすいコンディションなので、朝食が食べられない、という因果関係もあり得るのでは、と思いました。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。</p>
		<p>・14ページの食品ロスについて、「30歳代では、他の年代に比べて多くなっている」というアンケート結果は、健康課Twitterのツイートでも見ました。</p> <p>30歳代の回答者のうち、小さい子どもの子育て中の人がある程度いるかわかりませんが、子どもが離乳食や幼児食を残すことはよくあります。感染症予防のため、子どもの食べ残しは食べない家庭もあります。</p> <p>30代の食品ロスについて、理由や背景を憶測で書かないことは評価しますが、30代だけ取り上げた意図は何だろう？と感じました。</p>	<p>30歳代の回答について、「よくある」と「たまにある」の合計値が他の年代と比べて多い結果となっているため、30歳代を取り上げております。</p>
2	現状の分析と	<p>・「孤食」や「個食」で、栄養の偏りや食欲の低下などが危惧されるとい、</p>	<p>「平成29年度 食育白書」(農林水産省)にて、</p>

	課題	<p>科学的根拠はありますか？</p> <p>また、「共食」をしたくてもできない人、「共食」が苦手な人もいます。ましてや、このコロナ禍です。</p> <p>多様性や感染症予防等の衛生に配慮するのならば、「孤食」「個食」でも、充実した食生活を送れるようにするのが、食育の役割の一つなのではないでしょうか？</p>	<p>食卓をみんなで囲むことにより、バランスのよい食事の知識等をコミュニケーションから得ることができ、食べ物についての理解や関心を深めることや、食事をする楽しさの気づきなどにつながる、との記述がされているため、本市においても、Koganei-styleの中で「団らん」を柱の一つとしており、「共食」については重要であると考えております。その内容を踏まえ、本計画においても、第3次計画より引き続き、取組の指標の中に「家族と一緒に食事をする」ことを掲げております。ご指摘に関しても貴重なご意見として受けとめさせていただき、今後は「共食」だけでなく、「孤食」「個食」においても充実した食生活を送れるように施策を検討してまいります。</p>
3	<p>内容全体的に「食事を用意する人の負担に対する配慮が感じられない」</p>	<p>・今、我が家では、未就園児・未就学児を含む、3人の子どもの育児中です。片働きで、ワンオペ育児の時間も長く、食事の準備も、手の込んだことはできません。子どもが食べてくれる物のなかで、なんとかバランスが取れる様には思いますが、家庭内で頑張るだけでは、理想に程遠く、限界があります。共働きで子育て中のご家庭や、在宅介護等のケアがあるご家庭では、また違ったご苦労があるかと思っております。</p> <p>「各家庭で頑張る」というのは、その通りなのですが、それだけばかりでは、追い詰められる気持ちになる人もいます。</p> <p>「食事の提供そのもの」の支援の記載は、高齢者や障がい者向けの配食サービスのみですが、44ページの「関係者の役割」の中で、「⑦食品関連事業者等」の部分を、今後発展させていただきたいと感じます。食育を考える・実践する余裕のない市民のために、栄養バランスの</p>	<p>本計画については、市民の皆様が各自負担にならず、できる範囲で取り組んでいただけるように、といった視点を持って計画を作成しております。しかし近年、ライフスタイルが多様化し、子育てする環境や課題も多岐に渡っております。多忙の中、育児等をしつつ食事の準備をする方の負担への配慮に関しましては、貴重なご意見として受け止めさせていただきます。今後は、様々な環境において育児や食事の準備を行っている全ての方にも、有用な情報を広報することができるよう施策を推進してまいります。</p>

		見本となるような弁当・惣菜・ミールキットの販売・宅配などして下さっている事業者の方々が、評価されるようにして欲しいです。	
4	市の食育の取組等について気になること	<p>・我が家には、7歳・5歳・2歳の子がおり、全員、小金井市の乳幼児健診を受けていますが、記憶にある限り、乳幼児健診の栄養講話は、ほぼ全て同じ内容だったように思います。</p> <p>5年も経てば、アレルギー対応や、鉄分摂取の考え方など、離乳食・補完食で新たな知見も出てきているだろうと思うのですが、講話の内容のアップデートがどのタイミングでなされるのか？気になっています。</p> <p>また、小金井市の保育の質ガイドラインでも、食育は独立の一項目が立てられていたり（「体育」は独立項目がないのに）するなど、「食育に力を入れている」小金井市のイメージはあるのですが、民間のレシピサイトにレシピを掲載している他市の取組み等と比べると、まだまだ伸びしろを感じます。</p>	<p>栄養講話の内容変更については、厚生労働省の「授乳・離乳の支援ガイド」が改訂されたタイミングで行っており、前回の内容は2007年3月の改訂によるもの、現在は2019年3月の改訂によるものとなっております。また、厚生労働省から情報や通達があったタイミングで、健康診断や離乳食教室において情報共有等を行っております。（例えば、乳児ボツリヌス菌の食中毒防止のため、生後1歳未満の乳児にはちみつを与えてはいけないなど）</p> <p>レシピの紹介につきましては、小金井市の食育情報サイト「Koganei-Style（コガネイスタイル）」（市民ボランティアによる運営）に多数のレシピを掲載しております。また、学校給食のレシピについては、学務課が小金井市HP内「学校給食のメニューをご家庭で作ってみませんか」にて紹介をしております。</p>